

1. 略歴

- 1988年3月 東京大学文学部中国哲学専修課程卒業
1990年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程（中国哲学専攻）修了
1991年8月 東京大学大学院人文科学研究科第一種博士課程（中国哲学専攻）中退
1991年9月 京都大学人文科学研究所助手
1997年4月 千葉大学文学部助教授
2003年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2015年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

中国思想、道教、中国医学

b 研究課題

- (1) 道教思想、道教史の解明
- (2) 道教と中国医学の関係史
- (3) 儒・仏・道の三教交渉史を中心とする中国思想史

c 概要と自己評価

研究の中心は道教であるが、道教と中国仏教との関係、および儒・仏・道の三教の影響関係からみた中国思想史についても考察を進めている。三教についてはこれまで道・仏の関係を論じることが多く、とくに道教の内丹説と仏教とのかかわり方について多角的な考察を行ってきたが、三教みつどもえの関係についてはあまり論ずることができなかったため、本期間では新たに儒教知識人の考える仏教・道教関係などについても考察を試みた。さらに道教と中国医学、およびアジア医学との関係の研究にも着手し、アジア医学研究者たちと科学研究費補助金によるプロジェクトを立ち上げて共同で研究に取り組んだ。

d 主要業績

(1) 論文

横手裕、「蘇軾の内丹説：その特徴と意義」、伊東貴之編『東アジアの王権と秩序：思想・宗教・儀礼を中心として』、汲古書院、2021.10、pp.465-480

(2) 書評

横手裕、神塚淑子著『道教經典の形成と佛教』、『東方宗教』137号、2021.11、pp.75-79

(3) 学会発表等

国際、横手裕、「《道藏》日本宮内廳藏本成書相關問題一考：從圖像資料談起」、「道教與物質文化：圖像、藝術、神話與文學論壇」、台湾・國立政治大學（オンライン）、2020.12.11

国内、横手裕「達磨の導引：易筋経と三教交渉」、シンポジウム「儒・道二教と仏教：三教交渉を再考する」、東方学会（オンライン）、2021.11.6

国内、立石和子、大沼由香、浦山きか、横手裕「看護系大学における「倫理」教育の現状」、第3回日本伝統医療看護連携学会学術大会、仙台赤門短期大学（ハイブリッド）、2021.11.28

国内、横手裕「身中洞天説続考」、シンポジウム「中国の洞窟信仰とその展開」、専修大学（オンライン）、2021.12.18

(4) 研究テーマ

科学研究費補助金、基盤研究（A）、横手裕、研究代表者、「アジアの伝統医学における医療・医学の倫理と行動規範、及びその思想史的研究」、2019～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

国際日本文化研究センター、研究員、2020.4～

京都大学人文科学研究所、研究員、2020.4～

(2) 学会

日本道教学会、理事、論文審査員、2020～

中国社会文化学会、理事、2020～

日本中国学会、論文審査委員、2020～

東方学会、学術委員、2021～